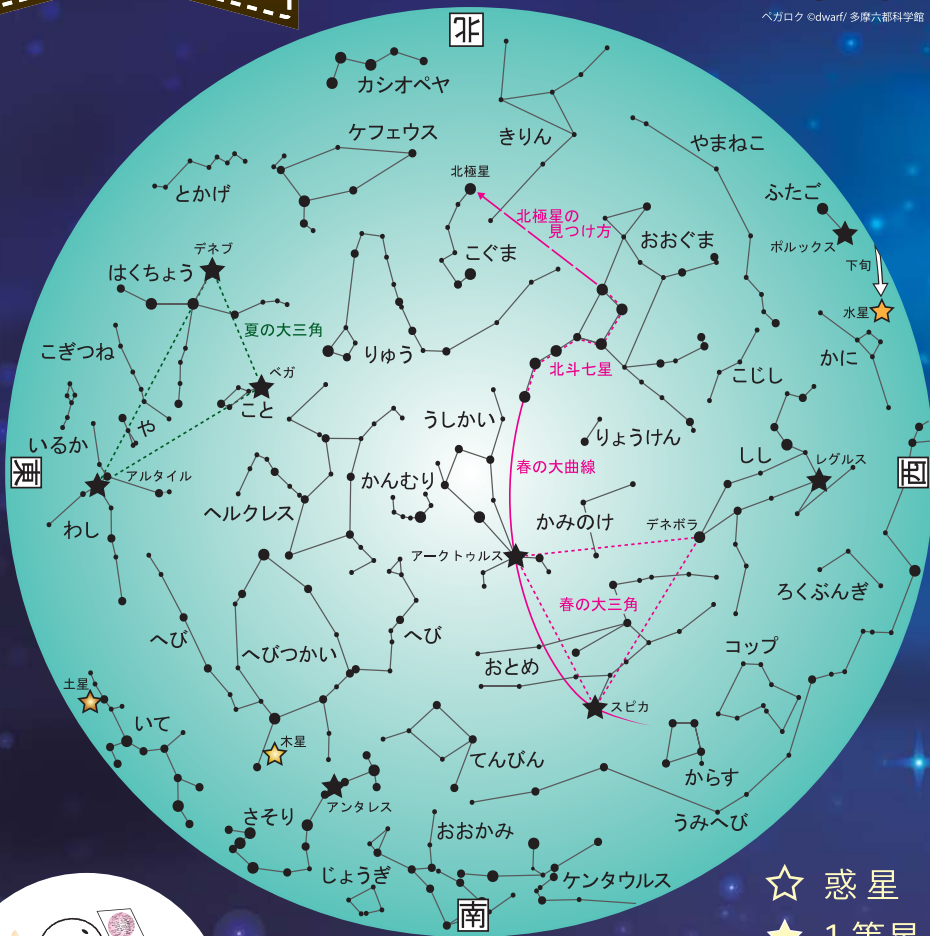


6月の星空

上旬：22 時頃
中旬：21 時頃
下旬：20 時頃



ベガロク ©dwarf/ 多摩六都科学館



星座案内のつかいかた

星座盤は空にかざして方位を合わせて見てください。
(空と重ねると東西の向きが正しくなります)

- ☆ 惑星
- ★ 1 等星
- 2 等星
- 3 等星
- 4 等星以下

2019年 6月のおもな天文現象

- 6/3 新月
- 6/5 月と火星が並ぶ (日の入り後、西の低い空)
- 6/10 上弦
- 6/11 木星が衝 ※木星が地球から見て太陽の正反対の位置にくること
- 6/16 月と木星が並ぶ
- 6/17 満月
- 6/18 火星と水星が接近 (日の入り後、西の低い空)
月と土星が並ぶ
- 6/22 夏至
- 6/24 水星が東方最大離角※
※水星が太陽の東側かつ、太陽から最も離れて見える位置にくること
- 6/25 下弦

おとめ座

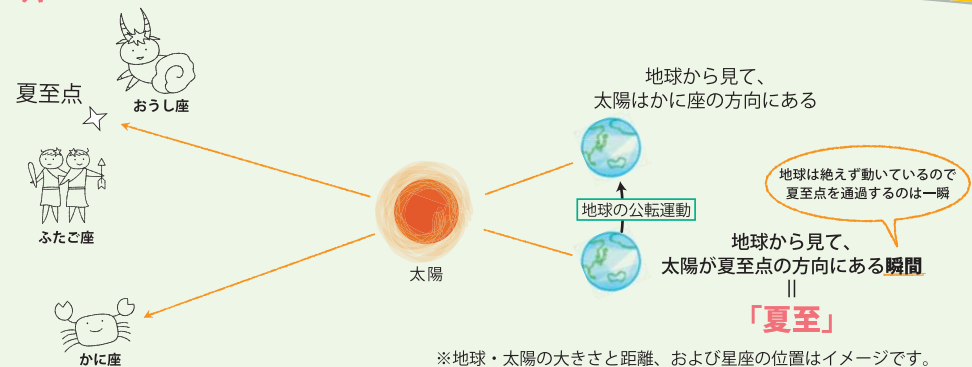
1 等星のスピカには、
「真珠星」という名前もあり

ます。うしかい座の 1 等星アー

クトゥルスとあわせて「春の夫婦星」とも呼ばれます。北斗七星の「ひしゃく」の持ち手を南のほうにのばしながら、夫婦星を順番につないで作るカーブのことを「春の大曲線」といいます。

今月のポイント

夏至ってなに？



夏至ってなに？

夏至は、天文学的には太陽が夏至点を通る「瞬間」のこと。一方、カレンダーの「夏至」はこの瞬間を含む1日であり、一般的になじみ深いのはこちらかもしれません。北半球では、太陽の南中高度が最も高くなる日となり、日の出・日の入りの方位は最も北寄りになります。

そして、夏至の頃は1年の中で最も昼の時間が長く、夜が短い時期(日の入りが最も遅くなるのは別の日です)。梅雨と重なることもあり、星を楽しむには不向きと思われがちですが、雨が上がった後の空はとても澄んでいて、春の大三角・北斗七星・夏の大三角などの明るい星で結ぶ形がよく目立ちます。

6月は、昼は太陽に、夜は星にご注目ください。